

平成29年度第1回花巻市立図書館協議会 会議録

1 開催日時

平成29年7月24日（月）午後1時30分～午後3時30分

2 開催場所

花巻市立花巻図書館1階 会議室

3 出席者

(1) 委員 10名

坂本知彌会長、門馬優子副会長、菊池一英委員、加藤暢之委員、市川浜委員、高橋則子委員、日下明久美委員、佐藤三恵子委員、高橋久美子委員、伊藤明德委員
※欠席者1名（佐々木さつき委員）

(2) 事務局 9名

市川生涯学習部長、中村生涯学習課長、晴山花巻図書館長、吉田大迫図書館長、盛田石鳥谷図書館長、久保田東和図書館長
城守花巻図書館副館長、伊藤花巻図書館業務係長、菊池石鳥谷図書館主査

4 傍聴人 1名（岩手日日新聞社 記者 似鳥政美氏）

◎次第及び協議内容等

- ・ 会議成立の報告（城守花巻図書館副館長）
- ・ 委員11名中10名出席。出席委員が構成員の過半数を超えているので、花巻市立図書館協議会規則第7条により本会議が成立することを報告。

1 開会（城守花巻図書館副館長）

2 あいさつ

（坂本知彌会長）

足元の悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。皆様のお手元に今日の資料が事前に送られてきていると思いますが、それにアンケートがございました。市民のいろんな考え方があるということを、アンケートを読んで改めて思ったところがございます。そして、新しい図書館を待ち望んでいることも感じたところです。

皆様のお知恵、ご意見を沢山顶戴いたしまして、良い会議になりますように、どうぞご協力よろしくお願いいたします。

3 議題（花巻市立図書館協議会規則により会長が議長となる。）

- (1) 平成29年度花巻市立図書館事業計画について・・・資料1及び資料2

・平成29年度花巻市立図書館事業計画について（平成28年度第3回花巻市立図書館協議会開催以後の事業実施状況を含む）、花巻図書館から順番に説明する。

花巻：伊藤業務係長、大迫：吉田館長、石鳥谷：盛田館長、東和：久保田館長

平成28年度決算及び平成29年度予算、図書館資料統計について城守副館長から説明。

（坂本知彌会長）

今までの部分で、ご質問ございましたらお願いいたします。

（高橋久美子委員）

平成28年度のところですが、ブックスタートは各館共通と書いてありましたが、石鳥谷のところには実施したものが書いてありませんが、毎月どのように実施しているのでしょうか。

（菊池石鳥谷図書館主査）

共通ということで今回入れないでしまいましたが、ブックスタートは4か月児の離乳食教室の時に石鳥谷保健センターで、ブックスタートプラスの方は1歳6か月児の育児健診の時に、石鳥谷保健センターで実施しております。

（坂本知彌会長）

人数も必要ですか。

（高橋久美子委員）

人数はいいです。

（坂本知彌会長）

共通だから同じようにやっているとすると、花巻では離乳食教室の時に本をただ渡すのではなく、読み聞かせをして、お母さんが赤ちゃんを膝の上にダッコして渡された本と一緒に開いて、そこで読み聞かせをして渡すというのがブックスタートです。ただ本をプレゼントするだけではないというのが、大きな特長かなあと思います。

（高橋久美子委員）

花巻の場合は、毎月第2、第4月曜日と書いてありますが、各館曜日を決めてやっているの、石鳥谷の場合はどういうふうになっているのかと思ったものですから。

（菊池石鳥谷図書館主査）

今、ブックスタートは、隔月になっておりまして偶数月の第2金曜日、ブックスタートプラスについては、毎月第4金曜日に実施しております。

（坂本知彌会長）

赤ちゃんも少なくなったんですね。他にございませんでしょうか。

すみません。いいでしょうか。読書おもいで帳の発行ですが、716人の1年生がいるのに、申請したのが302名で半数を割っていますよね。無料だしみんなほしいと思ったのですが、これはどういうことなのでしょう。どんな形で申請を受け付けしたのでしょうか。

（伊藤花巻図書館業務係長）

各小学校さんに、申請書を人数分お願いし、保護者の方々にもお手紙をお付けしまして、保護者の方から許諾をいただきながら、登録が必要な方もあるので、そういう形で申請書を出していただきました。説明は詳しくしたつもりでしたが、理解がちょっと難しかった方もあった

のかなあとと思います。ただ、今回の開始に合わせて締め切りを設けましたが、今後ご希望があった場合は、交付していきたいと思っておりますので、お話しいただければと思っています。

(坂本知彌会長)

わかりました。ありがとうございます。

(菊池一英委員)

昨年度、アルバムを破られたりなど、いろんなニュースがありましたね。所蔵数は載っていますが、廃棄される本も含めて、あるいは去年のようなものを含めて、28年度の実態はどうだったのでしょうか。

(伊藤花巻図書館業務係長)

今回報道があった時に、各館で確認したところ花巻市立図書館では被害がなかったことを確認しております。あとは除籍のお話だと思いますが、そちらの方はやはり古くなっても捨てられない本もあります。内部で検討して、ボロボロになってしまったものなど、致し方なく除籍するものもあります。

(菊池一英委員)

意図はですね。一般の方々にどういうふうな扱いをされているのか。沢山読んでボロボロになるのは読まれているということで良いことですが。乱暴に扱われている実態がなければ良いと思って、私、初めてですのでお聞きしたかったわけです。

(伊藤花巻図書館業務係長)

その方によって扱いはそれぞれですので、一概には言えないのですが、すごく丁寧に扱っていただける方もあります。小さいお子さんだとやはり理解できないで、破いたりすることもあります。一般の方は、そんなに粗末に扱う方は少ないと感じております。

(坂本知彌会長)

他にございませんでしょうか。

(日下明久美委員)

読書おもいで帳のことでちょっとお伺いしたいのですが、市内の小学校1年生を対象に今年お渡しするということですが。ということは、今2年生以上の子供たちは、読書おもいで帳はいただけないということですか。

(晴山花巻図書館長)

花巻図書館の晴山でございます。よろしくお願いたします。

今のご質問でございますが、まず今年度は新1年生を対象とし、その発行状況を見ながら2～3年生、小学校、中学校と広がりを持った形の中で進めて行ければと考えております。何よりもほしいという方々がどれくらい出てくるか。これも見ながら進めてまいりたいと考えておりましたので、ご理解いただきたいと思います。

(高橋久美子委員)

予算の関係もあるので、今回は1年生にしぼったと思いますが、例えば、有料で50円とか100円とか子供のお小遣いで払える範囲で、50円でお分けいたしますよという形もとれないではないですね。

(晴山花巻図書館長)

今、委員さんからお話があったとおり、そのようにも考えられると思いますので、ご意見として頂戴したいと思います。

(坂本知彌会長)

他にございませんでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、議題の2番目に移りたいと思います。(2) 図書館来館者アンケートの結果報告について、事務局からお願いいたします。

(2) 図書館来館者アンケートの結果報告について・・・資料3

・(2) 図書館来館者アンケートの結果報告について、晴山花巻図書館長から説明する。

(坂本知彌会長)

アンケートに関してのご質問ありませんでしょうか。

(日下明久美委員)

アンケートの回答者数のことなのですが、大体何人ぐらいを目標にアンケートをしたのかなと思います。というのは、東和の場合は24件と書いてありますが、このくらいのアンケートだけで、その年度の図書館に対する利用者の要望だとこのように表にまとめられるのは。これが実態なのかとちょっと感じてしまうのですが。

アンケートのコンセプトというか、利用者の何%とか、そういうことはないのかなとちょっと思ったのですが。

(晴山花巻図書館長)

ちょっと難しいご質問ですが、統計的なこともあるかと思います。数が多ければやはりそれはそれなりの部分で、ある程度の方の要望を聞くことができるというふうになるわけですが、正直に申し上げて、アンケートをとる前の目標の設定はしておりませんでした。

図書館に対するその年の要望が聞ければ良いという、そういうコンセプトはございます。そういう部分で始めたということですので、今後アンケートというものについて、来館者の数はわかりますので、そのへんの部分も含み人数的なものを設定しながら、ある程度の統計的数値で皆さんの意向等も把握したと言えるようなアンケートにしたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

(坂本知彌会長)

アンケートしているのは、わからないのですね。一般来館者は。

(晴山花巻図書館長)

入口のところに、来館者アンケートをしていますのでというご協力の張り紙をしながら、用紙と入れるボックスを置いておりました。また、2階のカウンターにも、そういう形で置いておりましたが、そのようなやり方も含めて、今後検討させていただきたいと思います。

(坂本知彌会長)

他にご意見、ご質問ありませんか。

次の方に皆さんの気持ちに移っているようなので、次に行ってよろしいでしょうか。それでは3番目の(3) 新花巻図書館整備基本構想(案)について、ご説明願います。

(3) 新花巻図書館整備基本構想(案)について・・・資料4

・(3) 新花巻図書館整備基本構想(案)について、市川生涯学習部長から新花巻図書館整備基本構想(案)に係るパブリックコメントの意見の内容とそれに対する市の考え方並びに構想(案)本文への追記事項について、説明する。

(高橋久美子委員)

最後の意見がすごく気になるのですが、補助金がどの位出て、花巻市としてはどの位公費をつぎ込む予定なのか、概算で良いので教えていただきたい。

(市川生涯学習部長)

図書館についての補助金は、現段階ではないです。今考えているのは、立地適正化計画という国土交通省の制度の中で、中心市街地活性化のためのつまり旧市街地区域内に建設した場合に、ある程度、数億の補助金が使えろと考えています。図書館の建設費については、数字を出すそれが先行する恐れがありますが、他館を参考にすると20億とか、それ位の数字が想定され、その中でいくらか補助が貰えるかなと思っています。あくまでも予想です。施設の規模や色々複合化となってくると建設費が変わる可能性がありますし、今後の財政計画を見ながら検討していく必要もあると思います。

(高橋久美子委員)

今の厚生病院跡地も花巻市が買うわけですよ。今、花巻病院移転ということで最近いっぱい花巻市ではお金がかかっていますが、財源の確保は大丈夫でしょうか。

(市川生涯学習部長)

図書館のような規模の施設になりますと、10億とか20億かかる可能性はあり、そういうことを含めて長期的な財政計画をたて、貯金もしているところです。お金を借りる場合もありますけど、計画性をもって考えながらやっています。人口が減っていく中で税金は増えてはいかないので、節約しながらも預金していた分も使いながら施設を整備していくことになると思います。

(坂本知彌会長)

無駄を省いて、必要なものにはお金をかけていく感じかなと思います。

(市川浜委員)

建物本体にかかわる記述が、特にあまり今のところ触れてないのですが、最近このような公共施設を建てる場合、例えば住田町の庁舎を木造で造ったとか、あるいは国立競技場の一部に木材を使うとか、こういう地場産の優れた資材を活用したそういう建物はこのような物にはピッタリだと思いますが、一般的に思うのは、構造的には鉄筋コンクリートで部材に木材を使うというのが一般的にはそうなるかなと思います。考え方として木材だって耐用年数は結構古いのもあるのですから、今の技術の中でそういうことを考えることによって経費の削減まではあるはいかないかと思いますが、地場産木材をふんだんに使ってということになれば、このような施設にかなり向くのではないかと思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

(市川生涯学習部長)

今のところですが、例えば、大迫中学校を今造っておりますが、あれもやはり木造で建設してはどうかという意見がありましたが、どうも構造体まで木造にするというのは、この辺では

できなくて他のところに行って造るのだそうですが、経費がかなり高くなるそうです。大迫中学校の本体はコンクリートですけれども、木材を沢山使って建設しています。図書館も全体を木造でいくとなると、図書の加重というのも結構な重さもありますので、なかなか難しいと考えております。そこは、今後どう木材の流通が変わっていくかかもしれませんが、なかなか全部、構造体まで木でやるというのは、大きな施設になればなるほど難しいと考えています。構造以外にはもちろん木は利用したいと思っております。

(坂本知彌会長)

パブリックコメントがこれ位来たというのは、今までの中でどの程度なのでしょうか。いっぱい来た方なのでしょうか。あまり反応がなかったのでしょうか。

(市川生涯学習部長)

分かる範囲では、スポーツ振興計画等のパブリックコメントでも回答は8名か数名ほどです。スポーツは全体的に市民の関心も高い分野で、閲覧される方は結構あるみたいですが、意見として書く方はそれ程ないと考えられます。また、概ね良いかと思えば意見を提出するまでいかないというのもあると思います。どちらかという、これだけは書いて欲しいとか、私の意見を申し上げたい、あるいは反対です、という方が多いかなと思いますが、今回はそんなに反対というご意見ではなくて、具体的にこういうことをやってほしいという細かいアイデアが多く、9名が多いとは言えませんが、まずまずのご了承をいただいた中でのご意見と考えております。

(坂本知彌会長)

細やかなところに、キチット質問があると思いました。読むのも、一生懸命読まないで大変でした。

(市川生涯学習部長)

まだ基本構想ですので、具体的な計画を作っていく段階で、例えば、面積とか子供用の部屋がこうですなど、より細かくなってきた時に、こういうものも加えたらというご意見が出てくると思いますので、そこは色々またご意見を聞いて進めていきたいと考えております。

(坂本知彌会長)

確かに、基本構想にかかわってきたものとすれば、子供たちのことを考えてやっていることがもちろんでしたが、そういう言葉がキチット見えるようにある方が良かったと思って、パブリックコメントの効果というのか、そういうところが必要だと思ったところです。皆、心の中で思っているのです。思っても言葉で見えなかったというのは、やっぱり必要だったと思いました。

他にございませんでしょうか。意見がないというのは、概ねこれで良いということで、あとは早くなってくれば良いなあと思います。

(市川生涯学習部長)

最後に今後の予定ですが、今回皆様のご了承をいただいたということで、来週、市議会議員の皆様にご説明をいたします。その後、構想を確定し、市民の皆様にご公表しまして、説明会を開催したいと思っております。その後は、より具体的な計画づくりに入りたいと思っております。その時はまた委員の皆様にご意見をお聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(4) その他

- ・第三次花巻市子ども読書活動推進計画の広報等について・・・資料5

晴山館長が第三次花巻市子ども読書活動推進計画の市内高等学校への概要説明等を、城守副館長が市内学童クラブ、保育園、幼稚園、認定こども園、小規模保育所、小学校、中学校への計画書の配付について、説明する。

(坂本知彌会長)

この件に関するご質問ありましたら。

(佐藤三恵子委員)

子ども読書活動推進計画の随所に、「子どもの成長段階に応じた本を整える」「発達段階に応じた読書指導の充実」など、繰り返し子どもの成長段階に応じた本が大事だとあります。私は、小学校の読み聞かせボランティアをしておりますが、小学校の読み聞かせでは、本は何でも良いという感じで幼児の本を読む人もかなりいて、5年前に小学校の図書ボランティアになってすごく幼児向けだと思いました。あまりにも幼い本を読んでしまって、子どもが離れている。読み聞かせをもう楽しみにしていない。「幼稚だ。なんだ、あんなもの。」みたいな空気が実際あって、私は、それがすごく問題だと思います。それで、いつも学校の先生たちに現状をお話しして、「幼児絵本を読んでいるのですが。」とご相談しますが、本は何でも良いとおっしゃるのです。先生は、成長段階や学年に合っていれば何でも良いということですが、ボランティアは何でも良いと思って、赤ちゃんの本を読んでしまう人もいます。やっぱり、子どもも本に対して「どうせ。」というような気持ちを持たれば、ボランティアがかえって子どもと本を隔てていることになってしまうので、何とかならないかともいつも思います。

ボランティアは、読書支援ができるというようにしたいと思いますが、この読書活動推進計画はボランティアの元には来ないですね。私は、図書館協議会委員になって初めてこれを読んで、子どもの読書支援の一端を小学校のボランティアも担っているのだと確信しました。例えば、これをすごくピックアップして小学校のボランティアなどに、ハンドブックみたいな形で、こういう意義と目的を持ってやっていますよ、子どもの成長段階に合った本を選びましょうということを、花巻市でやっていただくことはできないでしょうか。

(坂本知彌会長)

ボランティアの代表の方は、入っているかもしれないけど、いかがでしょう。

(晴山花巻図書館長)

難しいご質問ですが、子ども読書活動推進計画につきましては、家庭、地域、学校、ボランティアの方々も含め、行政すべての方々の連携ということの基本としております。今、お話がありましたように、皆さんがそれを理解していなければ、やはり進まないわけでありまして、そういう部分で計画の部分がパッと見てわかる1枚もので、わかりやすくこの計画が目指すところ何なのかという部分を含めて、できるものかどうか考えさせていただきたいと思っておりますし、作る方向で考えていきたいと思っております。

(佐藤三恵子委員)

本は何でも良いと言わないで、ボランティアさんに選んでもらったお子さんに良いと思った本を子どもたちに届けてくださいと、一言ありさえすれば、かなり変わると思います。本は何

でも良いと言ってしまうと、1年生なのに、3歳くらいの本を読んだりするので。

(菊池一英委員)

学校図書館協議会の立場で話をさせていただくと、私も4月からなので、まだしっかり現状を把握できていないのですが、少なくとも湯口小学校、湯口中学校にいらしているボランティアさんは、すべて事前に学年に合ったものをボランティアさんが選んで、そしてちゃんと打ち合わせをしてやっています。そういう段階を経て、中学校に上がっていますので、図書の利用が多い方だと思います。

今年第1回目の学校図書館協議会では、市内の小・中30校の先生方に、うちに来ているボランティアさんが講師をしてブックトークも含めて、こういうふうな本をと、具体的に図書も買いましたし、提示をして研修会を行いました。今、お話を聞いていて、1回ではなくてボランティアさんの中で、共有を含めて必要なのかなあと、今とらえましたので。

(佐藤三恵子委員)

先生がおっしゃることを実践できている学校も実際あると思いますが、本当に私、孤軍奮闘で頑張っています。学校の先生に、何度もこの話をします。そうすると、実質的なボランティア活動に対して、こういう学年にはこういう本を読んでほしいと要求することはありませんと言われます。うちの学校だけかもしれませんが、やっぱり読んでくれているお母さんたちには、限度があります。「そういう本ではなく。」と言うと「じゃあ、やめる。」ということにもなります。実際、読んでもらっている子供が、「ちえ、なんだ、読み聞かせかよ。」と言う。本末転倒という感じがします。

(坂本知彌会長)

読み聞かせは、楽しいなあと思ってほしいですね。そのための努力は、ボランティアはすべきです。

(佐藤三恵子委員)

昨年度の3学期に、2年生の女の子が図書館に来て、「お楽しみ会で紙芝居読みたいから、紙芝居選んでください。あまり子供っぽくなくて、みんなが知らない話がいい。」と私のところに来て言った言葉から、読み聞かせボランティアが読む本も、あまり子供っぽくなくて、今まで私が知らない本を読んでほしいというふうに関心しました。そういうことをボランティアの自発的なリーダーシップをとっている人たちが、「そうしよう。そうしよう。」と言っても、やっぱり「どうぞ勝手に。」という人もいます。そうすると、幼児本になってしまう。じゃあ、私は、どうすれば良いのでしょうか。

(坂本知彌会長)

難しいですね。読んだ本を記録していくことも大事かもしれない。そうすると、自分が読んでいる本は幼いと気づかれるかもしれないし、あまりボランティアさん同士で、どうのこうのは言いにくいかもしれない。

(佐藤三恵子委員)

例えば、図書館に来て、読み聞かせの大型絵本を借りる時に、あまり幼い本だったら窓口で「これは赤ちゃんの本ですよ。」と言ってくれないかなと思います。こういう子ども読書活動推進計画があって、子どもの成長・発達段階に応じた読み聞かせをしましょうというふうな、一

度お触れみたいな感じで、学校、図書館とボランティアが一体となって、それを認識できるようなことを1回やってみてほしいと思います。

(高橋久美子委員)

研修をする機会をボランティアさんに、つくらなければいけませんね。

(坂本知彌会長)

研修もありますよね。

(佐藤三恵子委員)

ところが、そういう人は、研修に行きません。

(坂本知彌会長)

1枚もので、わかりやすいもので、こういうことがありますよということを全ボランティアさんに、共通理解していただくことが必要かもしれませんね。

(佐藤三恵子委員)

モデルケースとして、湯口小学校のボランティアさんにコメントをもらうなど、私たちボランティアを引っ張っていただきたいと思います。

(坂本知彌会長)

じゃあ、課題ということで、良い方向に行きますようにご検討をお願いします。

(晴山花巻図書館長)

ご相談したいと思います。

(坂本知彌会長)

孤軍奮闘しないで、仲間を増やしてってください。

(佐藤三恵子委員)

仲間は徐々に増えてはいて、学年それぞれに合ったものをももちろん読もうとしている方もいますし、まとめきれないところもあるというところです。

(坂本知彌会長)

学校の先生が、こういう本を読んでもくれると良いなあという一言は大きいですね。

(佐藤三恵子委員)

小学校できちんと年齢に合った投げ掛けができれば、中学校でも続くし、高校でも読書者率が下がることもなくて、本に対する信頼を失わせない。本を読むと、いろんな良いことがあることを幼いときから受け止めてほしいと思います。

(坂本知彌会長)

ちょっと厳しい実例がありましたが、これも現実なので受け止めて、研修が必要かと思えます。よろしくをお願いします。

その他、あとごさいませんでしょうか。それでは、その他のところまで終わりましたので、事務局にお返しいたします。

4 その他 なし

5 閉会 (城守花巻図書館副館長)

